



### 仕事と介護の両立

団塊の世代がすべて後期高齢者になる 2025 年には、要介護状態の人が爆発的に増えることが予想されます。課題になるのは介護を必要とする高齢者だけではありません。今まで元気であったはずの親が、急に介護を必要とする状況になり、仕事と介護の両立で悩む 40-50 代が増えるということです。

40-50 代と言えば、会社では重要なポストを任せられ、戦力として期待されている世代です。その 40-50 代のビジネスパーソンが、親の介護のために仕事に十分なエネルギーを注ぐことができない状況になれば、会社だけではなく、日本の社会にとって大きなリスクとなるでしょう。

リスクマネジメントは、決して震災や台風などの自然災害に対してだけではありません。迫り来る団塊の世代が要介護状態になるとき、その団塊ジュニアである 40-50 代が、仕事と介護を両立できる対策も、リスクマネジメントです。

数年前から介護離職予防は叫ばれてきました。介護休暇やテレワークについても紹介されています。しかし、これだけで十分な対応は難しいのではないかと感じています。

避けることができない親の介護という困難とどのように向き合っていくと良いのでしょうか。私は、個々のレジリエンスを高めることが重要になると考えています。レジリエンスとは、耐える力、バネのように回復する力を意味します。

人も物もお金も不足し、100 点の介護は困難なことが予想されます。100 点が取れなければダメと自分を責める思いが強いつき、仕事を辞めてしまう人は増え続けていくことでしょう。

これからの時代、多様性を認める社会が求められます。働き方も個別性があります。同じように、介護をしながら仕事を続けられる社会にシフトしていくことが、日本の社会にとってのリスクマネジメントになります。

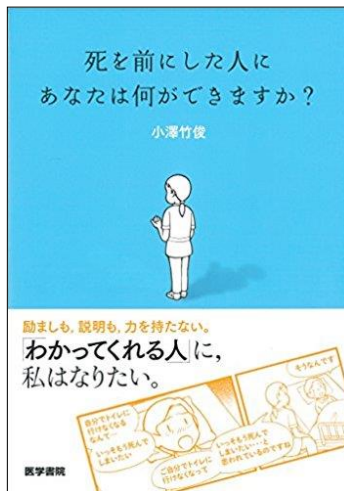
エンドオブライフ・ケア協会として、企業向けにこのテーマの研修を準備しています。人生の最終段階に対応できる対人援助は、解決できない苦しみを抱えた人が、これから生きるヒントにつながるからです。決して平坦ではない人生において、自分の弱さを認め、自分の支えを知った人こそ、困難な社会でも、逃げないで向き合える確かな力になり得ることを伝えて行きたいと思えます。

小澤竹俊

### 死を前にした人に あなたは何ができますか？

エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座のエッセンスを凝縮した新刊が先日販売開始となり、早くも重版となりました。ひとえに皆様のおかげです。

地域包括ケアシステムの各論として、看取りにまで関われる人が、地域に必要です。それも、医療の資格がある一部の人だけではなく、家族や友人、介護職の人など、関わる全ての人が、”自分ができることがある”と思えることが、求められます。



この本は、医学的な専門用語をほとんど使っていません。中学生の夏休みの課題図書とまでは言いませんが、一般の人が読んでも十分に理解できる内容です。

2025 年まで、あと 7 年 5 ヶ月。限られた時間で、多くの人に伝えて行きたいと思っております。

### NHK ジャーナル ラジオ出演

7 月 26 日（水）夜 10 時から NHK ラジオ第一放送の番組 NHK ジャーナルのジャーナル医療健康のコーナーに出演する機会がありました。日野原先生逝去のニュースや、在宅医療の魅力や課題などについて、ご紹介させていただきました。

### 診 療 実 績

	2006 年～ 2016 年	2017 年 1-4 月	5 月	6 月	7 月	2017 年 計	総計
訪問回数	50,852	3,022	768	765	767	5,322	56,174
自宅永眠	1,769	65	22	17	14	118	1,887
施設永眠	218	17	6	8	5	36	254
在宅 (自宅+施設)	1,987	82	28	25	19	154	2,141
病院永眠	487	39	5	8	9	61	548